

**第8回**  
**気高地域振興会議**

日 時 平成28年2月16日(火)

午後1時30分から4時

場 所 気高町総合支所 会議室

**〔出席委員〕**

横田昭男会長、池長綾子副会長、西尾雅彦委員、堀尾富男委員、池原隆秋委員、  
下村益雄委員、田中敦志委員、松本弥生委員、荒尾純子委員、水津文恵委員、  
三澤秀正委員、米田克彦委員

**〔欠席委員〕**

なし

**〔事務局〕**

鈴木敏支所長、橋本浩之副支所長、山本正信産業建設課長、村上郁恵市民福祉課長、  
中原登地域振興課課長補佐

**〔傍聴者〕**

なし

**◎会議次第**

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 鳥取市公共施設再配置基本計画(案)について
  - (2) 気高町民体育館について
- 4 報告事項
  - (1) 気高地区都市再生整備計画の進捗状況について
  - (2) 浜村温泉館の早期再開に関する意見書の提出について
- 5 その他
  - (1) しょうがぼかぼかフェスタ2016、浜村温泉映画祭について

(2) 気高スカロップ杯中学校バレーボール大会について

6 閉会

## ◎議事概要

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 協議事項

#### (1) 鳥取市公共施設再配置基本計画(案)について

(会長) 早速ですが、協議事項に入らせていただく。鳥取市公共施設再配置基本計画(案)について、鈴木支所長に説明をお願いする。

[資料1に基づき説明] (略)

(会長) 委員の皆さんからご意見、ご質問があればどうぞ。

(委員) 41ページの農業振興施設について尋ねたい。行政によるサービス提供の必要性が低くなってきたと考えられると。この辺は、どこを見て必要性が少なくなったと考えられているのか。更新しないということであるが、その場合、他の施設で対応すると言われたが、他の施設ということは、似たものが周りにあるのか、または、そういうことを考えていくのか。

(事務局) 瑞穂の施設については、豆腐やジャムなどを加工しており、利用者の方と相談して、継続の方向に持っていくような取り組みをすとか、地元への譲渡などができないか検討していきたい。この施設は、農産物の振興、特産物の開発するために整備したものであるが、現在は、実際使っているのが限られた人ということもあり、必要がないという考え方になったものと思う。

(委員) 一番心配するのは、人口が少ないところの公共施設はどんどん減らされるということになれば、そこに住む人もだんだん住みにくくなるということが起こる。どう利用者や人口を増やすかという観点でものを考えながら施設の統廃合を行う必要がある。

(会長) 他に意見はないか。

(委員) この計画は、施設の種類ごとにまとめてあるが、気高地域振興会議の場で見ると、できたら気高の部分だけを抽出したほうが見やすい。一覧表になれば活用の仕方なりいいアイデアが出てくるのではないかと思う。

(委員) 体育館の施設だが、26ページの農業者トレーニングセンター、宝木にある勤労

者体育センターも国体直前につくった建物だが、どうして10年もの耐震性の差があるのか。

(事務局) 建物の構造に違いがあり、農業者トレーニングセンターは鉄骨造り、勤労者体育センターはコンクリートブロック造りであり、財務省令の耐用年数表に当てはめると、コンクリートブロック造りは耐用年数が38年、鉄骨造りのほうは50年となっており、耐用年数に違いが出るということである。

(会長) では、次に移りたい。

## (2) 気高町民体育館について

協議事項の2番目、気高町民体育館について、橋本副支所長より説明をお願いしたい。

[説明(略)]

(会長) 何かご質問などがあればどうぞ。なければ次に移りたい。

## 4 報告事項

### (1) 気高地区都市再生整備計画の進捗状況について

では、報告事項の1番目の気高地区都市再生整備計画の進捗状況について、橋本副支所長をお願いしたい。

[資料2について説明(略)]

(会長) 委員の皆さんからご意見、ご質問があればどうぞ。

(委員) 28年度から5年で事業を実施するということだが、この変更は可能なのか。

(事務局) 大幅に変えるような計画の変更はできないと考えている。ただ、この中身について、皆さんの意見を伺いながら修正や、さらにつけ加える等、軽微なものはできている。

(委員) この地域のまちづくり、地域おこし、そういう視点がどこまで入っているのか。2億5,000万かけて、この地域の経済活動がどのくらい生み出せるのか、それにつながる投資なのかというのが、実は地域の経済活動ということが考えられてつくられているかどうか非常に疑問を持っている。目標として観光交流施設利用者数というのがありますが、1万4,000人が5年たって1万4,200人、たった200人の増加なのか。

また、浜村温泉館を加えることができるのか。さらに、貝がら節の歌と踊りの保存ということをやらなければいけない。そういう核となる施設がつくられない、そういうものが

この中に落とし込まれていないとも感じる。

(事務局) 代表的な指標ということで、利用者の数の質問があったが、観光交流施設の利用者数合計が、27年度は1万4,000人、平成32年は200人の増ということである。これは観光センターの利用人数を上げており、現状の推計でいうと右肩下がりになっていくが、それを道の駅とか、再整備計画ということで現状維持なり、微増を図っていききたいということで、1万4,200人と数値目標をかかげている。

(事務局) 浜村温泉館だが、この計画自体がそういった公共施設や、観光施設等については対象外になることから、別の場所で検討する。浜村温泉館を今後どうするのか、また後ほど報告するが、今言われたようなことは、この計画とは別になるが、リンクさせて道の駅開通後の浜村地区、気高地区の観光ということに結びつけていくという考えは、この事業とあわせて検討してきたいと思っている。

(委員) 2億5,000万をかけて整備するわけだが、その費用対効果はどう考えているのか。浜村地区内の人口が増えるとか、観光客が増えるとか、そういったことを考えて申請したわけで、詳しく説明してほしい。

(事務局) 今日は担当課が来ていないので、担当課から聞いた範囲でしかお答えできないが、詳しいことは後ほど伝えさせていただく。ハード事業だけではなくてソフト事業を絡めて交流人口を増やしたり、生きがいの場づくりをしたり、そういった内容を考えている。具体的には、提案事業で気高健康推進計画の策定、まちづくり活動推進事業というソフト事業や健康づくりに絡んだ気高周遊マップの作成のほか、事業効果の分析もするように計画に落とし込んでいる。ソフト事業はハードとは違って、経費が少ないが、こうした計画に取り組みながら浜村駅を拠点として、鹿野、宝木など周りも活性化させる目標で計画を策定している。

(委員) 気高町にとって浜村が一番人口が集中し、ここを中心にいろいろと気高町全域に物事が進んでいるが、いろいろ不便な集落もあり、そこが発展しないことには気高町全域が発展しないと考えている。2億5,000万も使うのなら、各集落に分配金を配り町の活性化を図ったほうがいいと思うが。

(委員) その時の委員だったので、話しをしたい。宝木地区公民館長も来ておられて、いろいろ意見を出されたが、この事業は浜村地区に限定されており、その範囲内で委員がいろいろ意見を出し集約した結果がこの計画となっている。

(会長) いろいろ意見はあったが今後みんな考え、効果的に事業が進むようお願いした

い。では、次に移りたい。

## **(2) 浜村温泉館の早期再開に関する意見書の提出について**

(会長) 報告事項の2番目の浜村温泉館の早期再開に関する意見書の提出について、鈴木支所長に願います。

[資料3について説明(略)]

(会長) この意見書については、先日2月8日に市長に直接報告した。そこでは、浜村温泉館の老朽化については存続するか否かということが一番気になることを協調した。また、昨日開催された会長会でも経過報告なり意見書を提出したこと、気高町の状況説明を行った。

(委員) 存続に向けて1,000人の署名を集める活動があると聞いているがどうか。

(事務局) 当日配布資料の中に、温泉館を利用する有志の方がこういうのをつくって、浜村温泉館の中に設置していると聞いている。1,000人という目標は特にないと伺っているが、この趣旨に賛同していただける方が自由に署名していただくような形をとっていると聞いている。

(会長) いろいろ意見はあるが次に移りたい。

## **(3) 気高道の駅(仮称)の整備について**

(会長) 報告事項の3番目の気高道の駅(仮称)の整備について、鈴木支所長に願います。

[資料について説明(略)]

(会長) 委員の皆さんからご意見、ご質問があればどうぞ。

(委員) 以前も聞いたが、道の駅は高速道路から下りたところにあり、図では目立たない感じがする。盛り土でもして高速道路と同じような高さにするほうがいいと思うが。

(事務局) ご意見は担当へは意見は伝えたいが、今は、地域住民も出入りしやすく、多目的に利用するために、下に道の駅を整備する考え方である。

(委員) 道の駅に関わっておられる地域おこし協力隊員が2名いるが、どのような活動をしているのか、説明する機会があってもよいのではないか。もう一つは、用地購入について、地権者には事前に話しがしてあるのか。中にはそういう農業者がおられ場合にはよっては代替買収用地の確保が必要となるが。このことも含めて、協力隊員に説明なり意見を

聞いてみたい。

(事務局) 地域おこし協力隊員または西いなば地域振興協議会の職員の方に、現在の進捗状況や、今後の進め方について説明していただく場を設けたい。

用地については、地権者の皆さんの前向きに検討させていただくと伺っている。具体的な用地交渉は、今年の秋の稲刈り後になると思う。農振除外、農地転用については、それまでに進んでいくのではないかと考えている。また、今のところ気高の方からは代替の農用地の話は出ていない。

(委員) 今、話しに出たが道の駅の関係で、気高、鹿野、青谷の3町で1回合同会議を持ち、一緒になって取り組みべきだと思う。

(事務局) 鹿野、青谷の支所に話しをしてみたい。

(委員) 以前にも提案したが、その会議にぜひ山陰合同銀行の石丸頭取を呼んで講演会でもしてほしいと思う。

地域おこし協力隊について、まちづくり会社、道の駅の運営で8割以上、9割はここにとられると思うが、この地域のイベントなり、浜村の再生というところで地域おこし協力隊員が何か新しいアイデアを持っているのではないかとと思う。今日の報告を聞くと、かなり限定された活動になっているようなので、もっと広い視点で活動ができるように羽を広げさせてあげたらどうかと思う。

## 5 その他

### (1)しょうがぼかぼかフェスタ 2016、浜村温泉映画祭、気高スカロップ杯中学校バレーボール大会について

[資料資料に基づき説明]

[特に意見なし]

次回の日程は、4月中旬に調整したい。

## 6 閉会

(会長) 以上、会議は終了します。